

国際研究セミナー

日仏漆芸交流史を学ぶ

開催のご案内

2014年夏、フランスのパリ装飾美術館において、ヴェルニ・マルタン、すなわちフランスにおける模造漆に関する大規模な展覧会が催されました。この特別展を企画実現した同館17、18世紀部門の主任学芸員アンヌ・フォレ・キャルリエ氏が来日されるのを記念して、国際研究セミナーを開催します。

16世紀末、ポルトガルやスペインの船によって日本の漆器が西洋の王侯たちにはじめて届けられてから21世紀の今日にいたるまで、日本の漆芸は絶えずフランスの趣味人を惹きつけてきました。フランスにおけるその模造技術は17世紀に起こり、18世紀には極めて高度に達し、模倣の枠を超えて独自の発展を見せるにいたります。20世紀初頭には日本の漆芸作家がフランスに移り住み、多くのフランス人弟子を育てるといった交流もありました。

本セミナーは、こうした歴史をこの分野の第一人者から学ぶ貴重な機会となるでしょう。

主催： 京都国立博物館 後援： 美術史学会

日時： 平成27年1月25日（日） 13:30～16:30 （13:00開場）

場所： 京都国立博物館 平成知新館 B1F 講堂

言語： 日本語

定員： 200名（当日、正午より平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布します）

聴講料： 無料（ただし、観覧券が必要です）

[プログラム]

13:30～13:40 開会の挨拶

13:40～14:10 セッション1 「日本製蒔絵の輸出に関する基礎知識」

担当： 当館 学芸部 主任研究員 永島明子

14:10～14:25 ブレイク（交流会）

14:25～14:30 アンヌ・フォレ・キャルリエ氏紹介

14:30～16:00 セッション2 "Le vernis Martin : la laque française"

「ヴェルニ・マルタン：フランスの《漆芸》」[仏語発表を日本語に逐次訳]

担当： Anne Forray-Carlier, Conservatrice en chef, Musée des Arts décoratifs, Paris

パリ装飾美術館 主任学芸員 アンヌ・フォレ・キャルリエ

16:00～16:25 質疑応答とまとめ

16:25～16:30 閉会の挨拶



唐子ヴェルニ・マルタン書き物机（パリ装飾美術館蔵）

ボンパドゥール侯爵夫人旧蔵

[Photo Les Arts Décoratifs / Laurent Sully Jaulmes;

京都国立博物館編『Japan 蒔絵 宮殿を飾る 東洋の燦めき』読売新聞大阪本社2008年より転載]

※本セミナーは、科学研究費補助対象、若手研究（A）「内外伝世品の調査ならびに比較に基づく京都製蒔絵の歴史的研究」（研究課題番号23682003）の成果の一部です。